令和６年９月19日

研修だより36号

山名小学校研修会（講話）

小笠原康晃

３　講話（以下は講話の内容の要旨です）

（１）教師のベーシックスキル

講師の椿原先生は、教師のベーシックスキルとして研究論文を引用していました。

紹介していたベーシックスキルの中で、**一番大切だと話していたのが「見え」でした。**

「見え」とは概念的な言葉で、具体的な意味としては「見方・考え方」ということになります。

初任者、若手、中堅、ベテランではそれぞれ見方・考え方が違います。

ベテランの先生ほど、本質をついた見方をすることができます。

それは、ベテランの先生ほど、一つのことを様々な角度から捉えることができるからです。

授業の中で、子どもの様子を見るとき、初任者とベテランでは全く得る情報が異なります。

初任者が全く見えていないことを気づくことが多いです。

これが「見え」です。

（２）「見え」が教師の一番大切なスキル

講話の中で外科医の話が出ました。

外科医にとって一番基本的なスキルは「縫合」だそうです。

縫合ができなければ、血管を縫うことができず、出血多量で命に関わる事態に患者をしてしまいます。

縫合こそ、外科医にとってのベーシックスキルといえそうです。

では、教師はどうでしょうか。

小学校教師で必要なスキルはなんでしょうか。

ある人は「児童理解」だと言います。

ある人は「教材研究」だと言います。

ある人は「生徒指導」だと言います。

言っていることも、言っている範囲もバラバラです。

私自身、初任者で授業もうまくいかず、学級も荒れているときがありました。

そのとき、多くの先輩の先生が心配をして声をかけてくれました。

「外で、もっと子どもとたくさん遊べばいいよ。」

「教室の中にいて、しっかりと子どもを見張らないとだめだよ。」
「授業の教材研究をもっとしっかりしなさい。」
「教材研究なんか必要ない。子どもを理解する方法を考えなさい。」
　初任者の学級をなんとかしたいという善意で、色々なアドバイスをくれました。
　しかし、全部バラバラで、私は途方に暮れてしまいました。

　新潟大学名誉教授の生田孝至は「教師のわざ　研究の最前線」という本の中で、初任者とベテランの教師を比較して追い続けた結果をまとめています。
　初任者とベテランの大きな違いは「見え」であると結論づけました。

　若手教員、中堅教員に必要な力は「見え」なのです。
　その「見え」は経験を重ねることで上達させることができます。
　しかし、普段よりも早く上達させる方法があります。
　それは、ベテランの先生をはじめとした他の先生方との「対話」です。

　生徒指導の相談。
　指導案の検討。
　研究授業の事後研究。
　他の先生と話をすると、自分とは違った見方や意見をもらえることがあります。
　ベテランの先生に話を聞くと、自分が考えていること以上のことを話してもらえることがあります。
「自分が持っている見方・考えとが異なったものを知ること」
　これこそが「見え」を上達させる方法だと思います。

　普段の実践ではどのように取り組んでいけばいいのでしょうか。
　例えば、授業を見合い、感想を言い合うことです。
　他の先生の授業を参観し、そのことについて話し合う。
　すると、自分とは違った見方・考え方を知ることができます。

　例えば、ベテランの先生と対話をすることです。
　経験豊富な先生から教えてもらえることは、その先生の見方・考え方を知り、視点を増やすことに繋がります。
　生徒指導の相談。
　授業の相談。
　何気ない雑談。
　そうしたことから学べることが本当に多いと思います。
　限られた校内研修の時間で実践していくことも大切です。
　しかし、普段から放課後に話すことが一番よいと思います。

（３）根底にあるのは「誰も取り残さない」という考え

学級の中には、勉強が苦手な子もいます。

発達障害の特性から、通常の環境では授業に取り組めない子もいます。

家庭環境が複雑で、なかなか学習が定着しない子もいます。

どんな子どもであっても「取り残さない」という考えが根底にあるという話をしていました。

「できない子」「わからない子」を見捨てない。

その子たちができるようになるためには、どうしたらよいか考える。

このような授業を常に考える続けているということでした。